

# 武藏野スケッチ物語98

桜堤三丁目にて

絵と文 大須賀一雄

見慣れた風景も、

絵になるとちょっと違う趣が出てきます。  
そんな武藏野の風景を、大須賀一雄さんが  
春夏秋冬で切り取って描きます。



私が10代から20代を過ごしたのは、群馬県の桐生市でした。上州名物「かかあ天下」とからつ風」というくらい、晩秋になると赤城おろしが大変厳しい、そんな場所でした。当時、1歳の長男が寝ているところに強風で割れてしまつた窓ガラスが降りかかり、大騒ぎになつたこともありました。

武藏野市に引っ越してきて、間もなく60年になろうとしています。市内の道路や環境が整備され、天候も過ごしやすく、本当に住みやすいと感じております。家から2~3分歩いたところには大きな公園があり、足の調子が良かつたら、また孫と散歩でもしてみたいと思つています。

これまでに、機会に恵まれて世界各国を何度も回つてきました。世界のさまざまな地域、あるいは日本のそれぞれの地方、その場所ごとの良さがあるとは思いますが、私は東京・武藏野が一番だと思っています。

大須賀一雄（おおすか・かずお） 水彩画家。1937年群馬県出身。武藏野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』（日貿出版社）、『スケッチお手本帖』（素朴社）、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』（旅もようスケッチ会）ほか。2022年まで、JR東日本の大人の休日俱楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も30回を超える。